

めぐりっと紫波

発行者 NPO法人紫波みらい研究所

TEL 019-671-2244 FAX 019-671-2243

E mail miraikenshiwa-mirai.com



紫波のまち 紫波のひと

そよかぜクラブのみなさん

虹の保育園にそよかぜクラブ（細田サツエ代表）のみなさんが笑顔で集まっています。

同クラブは、虹の保育園子育て支援センターで月2回、子育て支援を行う地域の高齢者13人によるボランティア団体です。虹の保育園に孫を送り迎えした祖父母のみなさんが、虹の保育園や地域の子どもたちに何か自分たちでやることはないかと結成。野菜づくりの指導、収穫した野菜の調理、ひなまんじゅうづくりなどで園児とのふれあいを続けてきました。

取材の日は、3月の修了式（18日）に園児に配るエコバッグづくりです。なんとその数150枚。

虹の保育園では、園児を迎えに来る保護者が、エプロンやオムツ（紙や布）よだれかけ、おしぼり、汚れた衣類などを持ち帰るために、毎日レジ袋を持参するのを見て、「もったいないなあ」と心を痛めていたそうです。そよかぜクラブのみなさんに相談したところ、レジ袋の替りになるエコバッグづくりを、快く引き受けてくださることになりました。

そのエコバッグは、明るい黄色でもち手がしっくりとしており、多少重いものを入れても手が痛くならないような型で防水性もあり、園児の母親の大先輩である皆さんの心配りが感じられます。

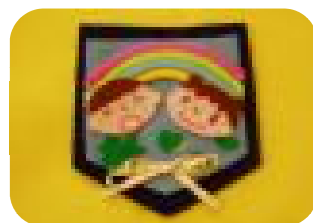
毎回10人前後の集まりで、布をまち針で止める人、しつけをかう人などと手際よい流れ作業です。「ここに集まっておしゃべりするのが楽しい。ぼけ防止になるのっす」という方言交じりの話し言葉のやさしいこと。聞くと手づくり人形や舞台で方言を伝承するための人形劇もおこなっているという。

また、エコバッグづくりが終わっても卒園児のための「エンブレム」や新入園児用のタオルで作った「エプロン（有料）」づくりもあるということで、「風邪なんかひいてられないのさあ！」と元気に話していらっしやいました。

この日は、思いがけない雪がしんしんと降る日で、風も冷たく寒い日でしたが、虹の保育園は、みなさんの暖かい気持ちで一足早い春のようでした。亡くなったおばあちゃんのやさしい笑顔を思い出させてくれた一日となりました。



楽しそうにエコバッグを作っている
そよかぜクラブのみなさん



上 卒園児が胸につけるエンブレム
右 修了式に配られるエコバッグ
下 新入園児用のエプロン



水分神社のルーツ

「人間生活にしみ込んだ水の原風景」(山口昌男)にこんな文章があります。

水が発生するのは、いちばん天に近い場所だといわれています。例えば、奈良の葛城山のずっと上の高い所に水分神社があって、そこは水が天から降りてきて分かれ、だんだん下へ行くといわれている神社です。水分という地名はいろんなところにあるわけです。水源に対する関心は、いつの時代にも強かったのです。私は東京の多摩川のほとりに住んでいます。多摩川をさかのぼって山梨県の塩山のほうに入っていくと、2メートルほどの岩があって、下のほうから水が湧き出しています。多摩川の源流です。そこには神社が二つあり、ミクマリ大神とヤツナミノ姫という男女両神が祭られています。日本での水のイメージというのは、天と地を含めた全体を円環のごとくつないでいます。

水分神社に対する日本人の関心や尊敬の念は、そのような円環性にあるのではないのでしょうか。小さな流れから川へ、川から海へ、海から天、そして天から雨になって戻ってくるサイクルになっています。水分神社に対する日本人の関心や尊敬の念は、そのような円環性にあるのではないのでしょうか。小さな流れから川へ、川から海へ、海から天、そして天から雨になって戻ってくるサイクルになっています。

人間は、水を通じて地上だけでなく、天空にもつながったその中にあるという意識があったわけです。水は円環、輪をなしているという考え方は、仏教という輪廻とも感じられます。

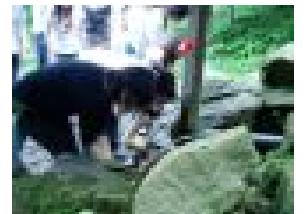
私は、紫波町の水分神社と奈良県、山梨県との水分神社は何か同じような原風景のイメージを感じます。

また、紫波町の水分神社の境内には日本三大美林(青森ヒバ、秋田天然スギ、木曽のヒノキ)の一つである裏日本系統のスギ樹林があります。樹齢100年以上という、この古木、神木は鎮守の森としての長い歴史を思わせます。水の円環と同じように、自然との共存、生命(いのち)と資源を大切に作る心、郷土の文化と伝統を後生に伝えることを目的として、紫波町が取り組んでいる「循環型まちづくり」と自然界の円環と相共通するものを感じます。

NPO 法人紫波みらい研究所
会員 小野寺三郎



水分神社の境内



上 水分神社の参道
下 おいしい水が湧き出しています



循環型まちづくりを考える町民講座の開催

2月23日保健センターにおいて、最終回(全4回)となる今回の講座は、全国レベルでレジ袋削減運動を展開する「レジ袋減らし隊全国運動実行委員長 田丸せつ子さん」を講師に迎え、お話を伺いました。どんな運動かというところ、レジ袋を断つても消費者には金銭的な見返りは一切なし、環境に「ちょっといいこと」をした「心のご褒美キャンペーン」です。紫波町では、5、2、3、7枚ものレジ袋が削減できました。

レジ袋減らし隊の4つの願い
レジ袋を失くすのではなく、できるだけ減らすこと。
自分たちの日々のライフスタイルを見直すこと。
地球環境問題について関心を持って自分のできることを何かしようとする人を一人でも増やすこと。
ひとりの力は小さいけれど、たくさん集まれば、大きな力になることということを大勢の人にわかってもらうこと。

今後は、「仕組みづくりができたので、それをどう改善していくか」「どうしても女性中心になるが、男性や小中高大学生にも協力を依頼する」「協力店の開拓」「他団体への働きかけ」「カードの回収方法・回収箱の設置場所」などを行い、運動を広げていくので、紫波町にもさらあなる協力を呼びかけていきました。



紫波町平泉関連史跡連携協議会からのお知らせ

町史に『平泉の分家』と記すほど、平泉にかかわる史実と伝承が多い紫波。協議会は、各地区で個別に取り組んでいた愛護会などの活動をつむぎ・連携してまちづくりに活かそうとします。設立から2年、長い名前の協議会は民間にありながら町総合計画との整合を図り、町施策の根幹とする『協働』の一端を担う地域活動を心がけて、多くの事業を展開してきました。

これまでの活動で特筆される事は、平泉町から高橋町長ほか12人を迎えての『紫波・平泉連携フォーラム』や、工藤雅樹先生(岩手県文化財保護審議会会長)を迎えた第3回フォーラムの成功があります。また、2万部のパンフレットを作成し、紫波中央駅前に観光案内所を開設した事や、大好評のテキスト『ふるさとの歴史は面白い』の発刊・頒布に続いて、短編小説『蓮華寺の月』が発刊された事なども注目を集め、その都度、地元紙に大きく報道されてきました。

3年目を迎える今年の方針は、

市民参加条例に基づき協議会が政策提案した『歴史の町を掲げたまちづくり』をめざします。町内の優れた史跡を国・県指定文化財とするよう調査・保全を要請し、併せて、観光資源として文化財の活用を図る官・民一体の協議の場づくりを求めています。

胸を張って案内できるふるさとの歴史遺産を、まず町民に広く知ってもらうために、1回2,000円のミニツアーを多く企画しました(下記ツアー企画)。クチコミで広がることを期待して、企画書の全戸配布を計画しています。

紫波町の発展を願う皆様のご支援をお願いします。

平成21年度前期ツアー企画

- 4 / 12(日) カタクリの判官堂・赤沢地区 半日ツアー
- 19(日) 桜の名所と町内平泉関連史跡めぐり
- 25(土) 当国33観音詣り1回目(北上・花巻方面)
- 29(祝) 白山神社祭典と赤沢地区徹底案内
- 5 / 3(日) 山屋ミズバショウ祭りと町内平泉関連史跡めぐり
- 10(日) 紫波の桃源郷と町内平泉関連 半日ツアー
- 6 / 6(土) 樋爪館まつり
(樋爪館跡・島の堂観音・下川原・北條館跡)
- 21(日) 栗駒・平泉ツアー(義経の東下りルートを訪ねる)
- 7 / 5(日) 陣ヶ岡・月の輪形と樋爪館徹底ツアー
- 18(土) 花めぐり平泉関連ツアー
(古代ハス・黄ハス・ヤマユリ)
- 25(土) 当国33観音詣り2回目(花巻・紫波方面)
- 26(日) 花めぐり平泉関連 半日ツアー
- 8 / 9(日) 町内平泉関連 半日ツアー
- 15(土) 町内平泉 半日ツアー
(お盆帰省のお客様にも)



暮らしのエコアイディア

三角コーナーは台所にいらない?!

みなさんは、家庭の生ごみ処理のしかたに悩んでいませんか?

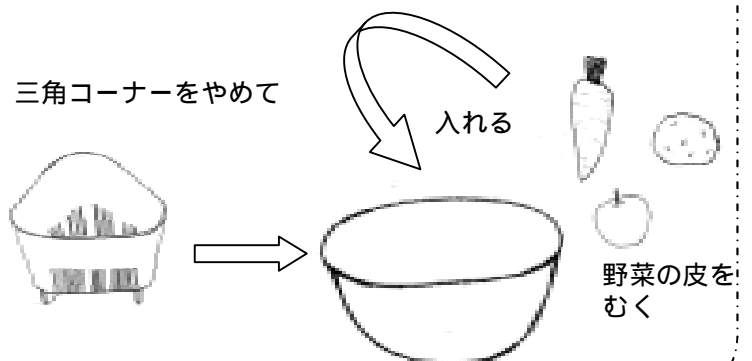
問題は、水分! 重いし、においの原因にもなります。悩んだ末、三角コーナーを流しに置かないことにしました。では、どうやっているか。

古くなったボールを生ごみ入れとして専用に使います。調理のときに出る野菜くずなどをそのボールに捨て、いっぱいになったら、生ごみバケツに捨てます。細かい皮やお茶っぱのくずは、流しの排水かごにネット(市販 or ストッキング)をかぶせておき、たまったら水気をぎゅっとしぼり、生ごみバケツに入れます。もうひと工夫するとしたら、お茶っぱなどは乾かしてもいいですね。

慣れれば(もうすぐ80歳になる母もやっています)なんのことはないし、何よりもすぐヌルヌルになる三角コーナーの掃除をしなくてもよくなりました。

ちなみに、におい消しには、水と酢を1:1で割ったものをスプレーするか重曹をパラパラと振りかけてください。重曹は、水分も吸ってくれます。

皆さんもぜひやってみてください。





イベント情報 4月～5月

詩吟教室（初心者向け）

4月4日（土）・18日（土）

時間 13時30分から15時30分

会場 中央公民館

会費 2回目まで無料

内容 腹式発声で心と体が元気になります！
有名な詩歌から歴史を知ることができま
す！年齢を問わず誰でもできます！

申込み 紫波詩吟会 佐藤 TEL 676-6840

紫波町名誉町民 巽聖歌「碑前祭」

4月24日（金）

時間 14時から

会場 紫波総合運動公園、歌碑前
（雨天時 中央公民館）

内容 たきび斉唱、献花、短歌鑑賞など

参加費 無料

問合せ 日詰公民館 TEL 671-1642

赤石公民館 教室のお知らせ

茶道教室

- ・日程 毎月第2・第4金曜日
- ・時間 13時30分から16時
- ・会費 月2,000円

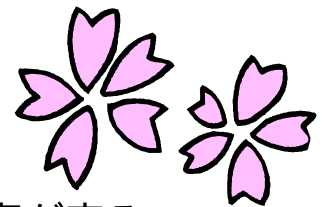
詩吟教室

- ・日程 毎月第2・第3・第4木曜日
- ・時間 19時から
- ・会費 月1,000円

木彫り教室

- ・日程 毎月第3土曜日
- ・時間 9時から12時
- ・会費 お問合せください。

申込み 赤石公民館 TEL 676-3999



行雲流水(6) - 春が来る -

日詰商店街平井邸のひな祭りは大盛會に
終わった。会期二日間の入場者数は一回目
の昨年の二割増し、七百名を越えたという。
主催者側は、来年は千名をめざすと意氣盛
ん。展示するお雛様を提供してくださる方
も今後増えそう、紫波の底力がじわりと
にじみ出てきた感じ。ひな祭りが終わる
頃になると、清流北上の水もきらめきを増
し、春が近づく予感に心が明るくなつてく
る。岸辺のネコヤナギ、落のとう、はこべ
らなど、厳しい世情とは関係なく暖かい春
は確実にやってくるのだ。水といえば、こ
の地に住まいを定めた当座、水道水の余り
のおいしさに感動、誰彼にそれを言つては
呆れられたのを思い出す。水道の水がうま
いなんて、おめさんの味覚はどうかして
んでないの、と。こちらは日本一汚れてい
ると評判の、印旛沼の水を引いた水道を使
い、飲み水と炊飯には買った水を使用
していた身。ある時教えてくれる人がい
て、水分（みずわけ）の湧水を口にしたと
きの感動。これが本物の水の味かと思
い入った。今号の水分についての寄稿文に、
あの時の感動を改めて思い出した次第。人
間、大地がゆりかごとになって育んだ、いわ
ゆるパーシウウォーターを日々口にしてい
たら、絶対に邪悪な人間にはならないので
はないか、などと考える。（三）

【編集後記】

めぐりっと紫波では、読者の皆さんからのおもしろい情報をお待ちしています。暮らしのエコアイデアも募集しています。また、誌面の感想や意見もお寄せください。

めぐりっと紫波 編集協力団体

紫波トークセッション さくら製作所

めぐりっと紫波は、毎回多くの人の手を借りながら、皆さんとともに歩んでいます。

次回も楽しい話題・活動紹介など、盛りだくさんでお届けします。

今回は、平成21年5月頃の発行予定です。